

公益財団法人 日本バレーボール協会
第13期・2022年度事業報告
(2022年4月1日～2023年3月31日)

今年度はコロナ禍の収束が見え始め、with コロナの中で人数制限などを緩和、解除しながら通常の事業を行えるように取り組んだ1年だった。その中で2021年度末に就任した川合会長のもと、バレーボールへの信頼回復が試される1年となったが、国際大会や各日本代表紅白試合などの取り組みにおいて「バレーボールを通して日本を元気にする」ことを合言葉に、国内競技会や各種事業においてもバレーボールの安全安心な競技環境の維持に努め、多くの方々の支援や協力を受けて活動を行った。

(1) 今年のトピックス

- ① FIVB バレーボールネーションズリーグ 2022 のファイナルラウンドは、男子がイタリア、女子はトルコで開催され、初のファイナル進出を果たした男子日本代表チームは5位。女子日本代表チームは7位で終了した。
- ② 2022 男子世界選手権において男子日本代表チームが決勝ラウンドに進出し、激闘の末フランスに敗れベスト16で終了。女子日本代表チームは、第3次ラウンド準々決勝に進出し5位で大会を終了した。
- ③ 8月にAVCカップが男子(台湾)、女子(フィリピン)で開催され、男子は2位、女子は優勝を果たした。
- ④ 6月にイタリアのローマで開催されたFIVB ビーチバレーボール世界選手権大会は、石井美樹・溝江明香ペアが17位となった。
- ⑤ 大阪府バレーボール協会の資金着服の問題から、適正な経理処理を行うことと財務報告の正確性を確保するために、加盟団体法人化への取り組みが始まった。
- ⑥ 昨今のスポーツ指導の在り方を見つめ直し、指導現場から暴力を完全に撤廃することを目的として、「暴力撤廃アクション」を開始した。
- ⑦ 「JAPAN バレーボール宣言」とクレド(行動規範)「JAPAN バレーボールWAY」を制定した。

(2) 決算について

コロナ収束をにらみながら、パリオリンピックをめざして通常の活動に戻る中で協賛金の増加もあり、補正予算を組んだ。VNL等の国際大会の入場料、補助金が予算よりも大幅に伸びた結果、4年続けての黒字決算となった。

収入は、補正予算1,975百万円から482百万円増の2,457百万円となり、支出は補正予算2,257百万円から31百万円増の2,288百万円となった。税引き後の最終利益は186百万円となった。

★略称解説★

AVC	アジアバレーボール連盟 (Asian Volleyball Confederation)
BVT	ジャパンビーチバレーボールツアー
FISU	国際大学スポーツ連盟 (International University Sports Federation)
FIVB	国際バレーボール連盟 (Fédération International de Volleyball)
JOC	公益財団法人日本オリンピック委員会 (Japanese Olympic Committee)
JSC	独立行政法人日本スポーツ振興センター (Japan Sport Council)
JSP0	公益財団法人日本スポーツ協会 (Japan Sport Association)
NF	各国のバレーボール協会 (National Federation)
NTC	味の素ナショナルトレーニングセンター (National Training Center)
VNL	バレーボールネーションズリーグ (Volleyball Nations League)
Vリーグ機構	一般社団法人日本バレーボールリーグ機構

<事業活動>

1. 競技力向上事業及び競技力向上に係る日本代表選手団国際大会派遣事業

【バレーボール】

(1) 各カテゴリー日本代表チームの選手育成・強化事業

全国の社会人、大学生、高校生の中から選抜された有力選手による日本代表チームを編成し、国際競技力向上を図るため以下の諸事業を行った。

1) 男子・女子日本代表チーム強化概要

男子：フィリップ・ブラン監督、女子：眞鍋政義監督の新体制で、パリオリンピック出場権の獲得を必達目標に強化を推進した。

■男子：国内合宿・NTC を中心に強化合宿を実施、VNL 大会前にブラジルと強化試合を実施

■女子：国内合宿・NTC を中心に強化合宿を実施、世界選手権大会前にフランスにて「パリプレオリンピック大会」に出場

注) 日本代表チームとはトップレベル選手で構成された日本代表チーム

2) 男子・女子ユニバーシアード日本代表チーム強化合宿

6月に中国・成都で開催される予定だったFISU ワールドユニバーシティゲームズは新型コロナウイルス感染拡大の影響で、再度2023年に延期となった。

女子は同大会での4大会連続のメダル獲得を目標に、選手強化合宿を行う。

■男子：国内合宿・NTC 及び他で一部実施

■女子：国内合宿・NTC 及び他で一部実施

注) ユニバーシアードチームとは、主に大学生を中心に構成される日本代表チーム

3) 男子・女子U20 日本代表チーム強化合宿

※FIVB 理事会（3月）にて突然男女共通の年齢区分へ変更があった

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、男女ともここ2年に渡り主要大会に出場できておらず、特に女子は世界選手権連覇がかかっていた大会の欠場を余儀なくされた。アンダーエイジカテゴリーのこれ以上の強化の停滞を招くことがないように、関係各所と連携し強化を推進した。

男子：アジア選手権に出場し、予選リーグで優勝したイランにフルセット、準優勝したインドにセットカウント1-3で敗れた。最終13位（全17チーム）に終わり、世界選手権出場権は獲得できなかった。

女子：アジア選手権では、予選で中国にストレートで敗れたものの、その後連勝して決勝まで勝ち上がり、中国にストレートで勝利し優勝（全9チーム）。世界選手権の出場権を獲得した。

■男子：国内合宿・NTC 及び他で実施

■女子：国内合宿・NTC 及び他で実施

注) 男子・女子U20 日本代表チームとは、2003年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

4) 男子・女子U18 日本代表チーム強化合宿

※FIVB 理事会（3月）にて突然男女共通の年齢区分へ変更があった

3)と同様の事情により、男女とも世界選手権出場の辞退を余儀なくされた。コロナ禍でも安心安全を担保しながら強化し、関係各所と連携しながら推進することができた。

男子：予定通り強化合宿を実施することができた。アジア選手権では、予選3試合連続フルセットの接戦を制し、決勝は地元イランと完全アウェーの中対戦し、見事ストレートで勝利し3連覇（全8チーム）。世界選手権出場権を獲得した。

女子：計画通り強化合宿は実施。アジア選手権は、予選から失セット0で決勝に進み、予選リーグで戦った中国との再戦では、2セットビハインドから逆転してフルセットで勝利し、8連覇（全11チーム）を達成、世界選手権出場権を獲得した。

■男子：国内合宿・NTC 及び他で実施

■女子：国内合宿・NTC 及び他で実施

注) 男子・女子U18 日本代表チームとは、2005年1月1日以降に出生した選手で構成される日本代表チーム

(2) 競技活動を行う選手の競技・練習環境の整備、セカンドキャリアに関する啓発、情報発信

JOC、JSC等と連携し、ナショナルトレーニングセンター内のバレーボール専用コートのLED照明設備設置、映像機器の更新を実施。

また、選手のセカンドキャリアについても、ビーチバレーボール選手を中心にJOCのアスナビを活用した。

(3) 将来性を有する選手の発掘及び育成強化事業

1) 全国小学生・中学生・高校生身長身選手の発掘育成事業

将来有望な長身選手の発掘、育成、強化を目的に、公募および推薦によるオーディションを行い、選抜した有望選手の育成強化合宿を実施した。そして、有望選手のリストを小学生・中学生から高校生までをデータ化し、選手情報を経年的に強化委員会等で共有した。

また、2022年度においては中学選抜チームを編成し、イタリア（San Giorgio）において「Cornacchia Winter Cup」に参加し、国際的に通用する選手の育成を図った。

実施事業	場所	期間	参加人数
エリートアカデミーオーディション合宿	大阪府泉南郡 (大阪体育大学)	2022年12月26日～28日	男子30人 女子30人
中学選抜第一次合宿	岩手県紫波町(オガール)	2022年10月13日～16日	男子30人 女子30人
中学選抜第二次合宿	東京都北区 (NTC)	2023年1月12日～15日	男子12人 女子12人
中学選抜海外遠征	イタリア (Cornacchia Winter Cup)	2023年2月21日～28日	男子12人 女子12人
中学生全国基礎合宿	東京都北区 (NTC)	2023年2月9日～12日	男子40人 女子40人
全国9ブロック高校選抜候補合宿	全国9ブロック	2022年8月19日～9月4日	各ブロック 男子20人 女子20人
全国高校選抜候補2次合宿 全日本ジュニアオールスタードリームマッチ	大阪府枚方市他	2023年2月17日～19日	男子52人 女子52人

(4) 競技力向上にかかわるバレーボール技術・戦術の調査研究及びスポーツ医・科学の調査研究事業

- 1) 日本代表選手の科学的測定評価、測定結果に基づくトレーニング処方立案とサポート
 - 男子日本代表選手バイメカ測定 (2022年7月)
- 2) 日本代表チームとの対戦が想定される外国チームの戦力を掌握した。
 - 女子VNL大会において外国チームのアナリストチーム情報収集(2022年5月～7月)
- 3) トレーナーおよびアナリストの育成、教育を行って日本代表チームに派遣するとともに、日本代表チームが利用する機材およびデータの管理・運用をした。
 - アナリスト育成セミナー (2022年12月26日～28日・参加者2名)
 - アナリストプレゼンテーションテスト (2023年3月9日・参加者2名)
 - アンダーエイジカテゴリー日本代表選手体力測定 (2022年10月～2023年3月)
- 4) 日本代表チームにドクターを派遣し、歯科・整形外科診断を中心に選手の健康維持、怪我防止及び傷害発生時の対処、薬剤を手配した。
 - 男女日本代表選手へのメディカルチェック (2022年4月)
- 5) アンチ・ドーピングの啓発を含むスポーツ・インテグリティの向上を図った。
- 6) 感染症専門ドクターからの示唆を仰ぎ、コロナ感染症対策を十分に実施したうえで安心・安全なトレーニング環境を創った。
 - 医師やトレーナーによる帯同報告会 (2022年12月17日・参加者26名)

(5) 各カテゴリー日本代表選手団の国際大会派遣事業

選手、チーム強化合宿の効果を検証するとともに、実戦（試合）を経て得られる技術、戦術の他総合的な競技力向上を目的として、以下の各大会に日本代表選手団を派遣した。

1) 男子：

<日本代表>

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2022 6/7～7/24
①ブラジル／②フィリピン／③大阪／ファイナル（イタリア）
5位（初ファイナル進出）
- ・AVC カップ 8/7～14 台湾
2位
- ・2022 男子世界選手権 8/26～9/11 スロベニア・ポーランド
12位（決勝T進出）
- ・第19回アジア競技大会 9/10～25 中国
※2023年に延期決定

<アンダーエイジカテゴリー（年代別日本代表）>

- ・FISU ワールドユニバーシティゲームズ 6/26～7/7 中国
※2023年に延期決定
- ・第14回男子U18アジア選手権大会 8/15～22 イラン
優勝（世界選手権出場権獲得）
- ・第21回男子U20アジア選手権大会 8/22～29 バーレーン
13位

2) 女子：

<日本代表>

- ・FIVB バレーボールネーションズリーグ 2022 5/31～7/17
①アメリカ／②フィリピン／③カナダ／ファイナル（トルコ）
7位（ファイナル進出）
- ・AVC カップ 8/21～28 フィリピン
優勝
- ・第19回アジア競技大会 9/10～25 中国
※2023年に延期決定
- ・2022 女子世界選手権 9/23～10/15 オランダ・ポーランド
5位（QF進出）

<アンダーエイジカテゴリー（年代別日本代表）>

- ・FISU ワールドユニバーシティゲームズ 6/26～7/7 中国
※2023年に延期決定
- ・第14回女子U18アジア選手権大会 6/6～13 タイ
優勝（世界選手権出場権獲得）

・第21回女子U20アジア選手権大会
優勝（世界選手権出場権獲得）

7/4～11

カザフスタン

【ビーチバレーボール】

(1) ビーチバレーボール男女日本代表チーム

ビーチプロツアーで最もカテゴリーが高い ELITE16 に出場可能なエントリーポイントを持つ女子日本代表チームの石井美樹（湘南ベルマーレ）・溝江明香（トヨタ自動車株式会社）ペア及び長谷川暁子（NTT コムウェア株式会社）・坂口由里香（トーヨーメタル株式会社）ペアの2チームを強化特化チームと位置付け、海外合宿および国際大会への派遣を実施した。

石井・溝江ペアは、今年度最も重要な大会である FIVB ビーチバレーボール世界選手権大会への出場権を獲得し、プール戦を突破して19年ぶりにトーナメント進出を果たす。ビーチプロツアーにおいても ELITE16 で5位を2回、AVC アジア選手権大会4位、AVC アジアツアーで2位を獲得するなど日本トップの成績を残した。

一方、長谷川・坂口ペアもビーチプロツアーで ELITE16 に4回出場を果たし、2番目にカテゴリーが高い CHALLENGE で5位を1回、AVC アジア選手権大会5位、AVC アジアツアーで2位を獲得するなど躍進するシーズンとなった。

なお、アジア競技大会については中国国内における新型コロナウイルス感染症拡大の影響により1年延期となった。

- 第19回アジア競技大会（2022/杭州）
9/10-25 ※延期
- FIVB ビーチバレーボール世界選手権大会
6/7-19 イタリア・ローマ 17位 石井美樹・溝江明香ペア
- AVC アジアツアー
9/10-12 タイ・ローイエット 2位 石井美樹・溝江明香ペア
9/21-25 タイ・サミラ 2位 長谷川暁子・坂口由里香ペア
- AVC アジア選手権大会
9/14-17 タイ・ローイエット 4位 石井美樹・溝江明香ペア
5位 長谷川暁子・坂口由里香ペア

<研修会開催>

- スポーツインテグリティ研修 1/30 *オンラインにて実施
- アンチ・ドーピング研修 3/2 *オンラインにて実施
- 情報戦略研修 3/8 *オンラインにて実施

(2) ビーチバレーボール年代別男女日本代表チーム

新型コロナウイルス感染症拡大の影響でアンダーエイジカテゴリーでは3年ぶりとなる国際大会が開催された。U19 アジア選手権大会においては選考会を実施し、選考された男女各2チームの派遣を実施。試合は黒澤孝太（明治大1年）・竜神輝季（駿台学園高3年）が過去最高の5位入賞を果たし U19 世界選手権大会への出場を決めた。

FISU 世界大学ビーチバレーボール選手権大会は 2018 年以來 4 年ぶりの開催となり、ビーチバレーボール強化委員会で選考された男女各 2 チームの派遣を実施した。

- ▶ 第 4 回アジア U19 ビーチバレーボール選手権大会
 - 6/2-5 タイ・ローイエット 5 位 黒澤孝太・竜神輝季ペア
 - 9 位 宮本武士・美保幸輝ペア
 - 13 位 和田みちか・森愛唯ペア
 - 13 位 久岡千夏・本田安依梨ペア
- ▶ FISU 世界大学ビーチバレーボール選手権大会
 - 9/6-10 ブラジル・マセイオ 18 位 福嶋晃介・上田翔貴ペア
 - 24 位 安達龍一・黒澤孝太ペア
 - 19 位 衣笠乃愛・菊池真結ペア
 - 20 位 川崎菜々子・福田鈴菜ペア
- ▶ FIVB ビーチバレーボール U19 世界選手権大会
 - 9/14-18 トルコ・ディキリ 25 位 黒澤孝太・竜神輝季ペア

<選考会>

- ▶ 第 4 回アジア U19 ビーチバレーボール選手権大会
 - 一次選考： 書類動画選考
 - 二次選考： スキル実技・体力測定・面接
 - 4/23-24 川崎マリエン

<強化合宿>

- ▶ 第 4 回アジア U19 ビーチバレーボール選手権大会
 - 5/21-28 川崎マリエン
- ▶ FISU 世界大学ビーチバレーボール選手権大会
 - 8/15-31 川崎マリエン

(3) アンダーカテゴリー強化事業

日本ビーチバレーボール強化の底上げ、及び若年層の継続強化を目的に若年層を対象とした練習会及び研修会を開催した。

- ▶ 練習会
 - 1/28 川崎マリエン
 - 1/29 川崎マリエン
 - 2/5 川崎マリエン
 - 3/4 川崎マリエン
 - 3/5 川崎マリエン
 - 3/18 川崎マリエン
 - 3/19 TACHIHI BEACH
- ▶ 研修会
 - 1/25 栄養研修／メンタル研修
 - 2/8 栄養研修 *女性アスリート

- 2/15 トレーニング研修
- 2/20 栄養研修
- 2/21 情報戦略
- 3/8 トレーニング研修
- 3/13 メンタル研修/栄養研修

2. 国際大会開催事業及び国際貢献・交流事業

(1) 国際大会開催事業

1) FIVB バレーボールネーションズリーグ 2022 男子大阪大会

- ・開催期間： 7月5日(火)～10日(日)
- ・開催都市： 大阪府大阪市(丸善インテックアリーナ大阪)
- ・出場チーム： 日本、アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、アメリカ(選手団160人、競技役員200人、計360人が参加予定)
- ・試合数： 16試合
 - ※7月5日(火) 2試合
 - ※7月6日(水) 2試合
 - ※7月7日(木) 3試合
 - ※7月8日(金) 3試合
 - ※7月9日(土) 3試合
 - ※7月10日(日) 3試合

日付	試合結果	入場客数
7月6日(水)	日本 3-1 オーストラリア (25-18, 25-15, 23-25, 25-19,)	7,000
7月8日(金)	日本 3-1 カナダ (25-20, 25-16, 25-20)	7,000
7月9日(土)	日本 3-1 ドイツ (23-25, 25-22, 25-20, 25-20)	7,000
7月10日(日)	日本 0-3 ブラジル (23-25, 23-25, 22-25)	7,000

2) 2022 男子バレーボール世界選手権壮行試合 日本代表紅白戦 in 沖縄

- ・開催期間： 7月30日(土)～31日(日)
- ・開催都市： 沖縄県沖縄市(沖縄アリーナ)
- ・出場チーム： 男子日本代表チーム(選手団30人、競技役員100人、計130人が参加予定)
- ・試合数： 2試合
 - ※7月30日(土) 男子1試合
 - ※7月31日(日) 男子1試合

日付	入場客数
7月30日(土)	4,000
7月31日(日)	3,600

3) 2022 女子バレーボール世界選手権壮行試合 日本代表紅白戦 ミズノマッチ in 岡山

- ・開催期間： 8月13日(土)～14日(日)
- ・開催都市： 岡山県岡山市(ジップアリーナ岡山)
- ・出場チーム： 女子日本代表チーム(選手団30人、競技役員100人、計130人が参加予定)
- ・試合数： 2試合
 - ※8月13日(土) 女子1試合
 - ※8月14日(日) 女子1試合

日付	入場客数
8月13日(土)	2,165
8月14日(日)	1,940

4) 2022 女子バレーボール世界選手権壮行試合 日本代表紅白戦 ミズノマッチ in 姫路

- ・開催期間： 8月20日(土)～21日(日)
- ・開催都市： 兵庫県姫路市(ヴィクトリーナ・ウイंक体育館)
- ・出場チーム： 女子日本代表チーム(選手団30人、競技役員100人、計130人が参加予定)
- ・試合数： 2試合
 ※8月20日(土) 女子1試合
 ※8月21日(日) 女子1試合

日付	入場客数
8月20日(土)	1,641
8月21日(日)	1,493

(2) 国際貢献・交流事業

1) FIVB 及び AVC 役員等派遣事業

FIVB および AVC の理事職および競技運営、審判規則、指導普及、医事ほか各種委員会の委員として JVA の代表を派遣し、世界のバレーボール界の発展に寄与するとともに国際的な貢献を行った。

本年は、FIVB および AVC 理事会ほか、各種会議に当該メンバーを派遣するとともに、国際レベルの指導者講習会への講師の派遣と FIVB および AVC が主催する大会への競技役員ならびに審判員を派遣した。

2) バレーボールバンク事業

自国におけるバレーボール普及発展のため用器具等の支援が必要な国に対し、競技会やトップバレーボールチームが使用したボール、その他バレーボール用器具を寄贈して競技の普及を図り、同時に様々なバレーボール情報を提供し、国際社会におけるスポーツ振興に寄与した。

併せて同事業の戦略的展開を通じ、寄贈対象となった各国のバレーボール協会(NF)との友好を結び、連携強化を図った。

3) 国際移籍(International Transfer Certificate)

FIVB が定める手続きに従い、国内リーグでプレーする外国籍選手および海外リーグでプレーする日本人選手の承認を NF として行った。国内リーグ所属チームのサポートも含む。日本人選手については、所定の移籍金を徴収した。

3. 講習会開催事業、指導者、審判員等養成及び資格認定・登録事業

(1) 指導者養成事業 ※新規指導者資格受講希望者の養成

各種別の指導者を対象に以下の主な養成講習会及び研修会を開催した。

1) JSP0 公認スポーツ指導者養成事業（資格認定講習会）

➤ コーチ4 専門科目講習会の開催

期 間： 8月6日（土）～8月10日（水）
場 所： 明治学院大学・AP品川アネックス（東京都）
受講者数： 7名

➤ コーチ3 専門科目講習会の開催

期 間： 8月6日（土）～8月9日（火）
場 所： 明治学院大学・AP品川アネックス（東京都）
受講者数： 51名

➤ コーチ2 専門科目講習会の開催

場 所： 全国1会場（静岡県）
受講者数： 41名

➤ コーチ1 専門科目講習会の開催

場 所： 全国30会場
（北海道・宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・
東京都・神奈川県・山梨県・長野県・富山県・静岡県・愛知県・三重
県・岐阜県・京都府・大阪府・和歌山県・兵庫県・島根県・山口県・香
川県・高知県・福岡県・佐賀県・熊本県・宮崎県・沖縄県）
受講者数： 1,260名

➤ コーチ1 専門科目講習会の開催（全日本大学連盟）

期 間： 3月1日（水）・3月2日（木）・3月3日（金）
場 所： 日本体育大学 世田谷キャンパス（東京都）
受講者数： 153名

➤ コーチ1 専門科目講習会の開催（日本クラブ連盟）

期 間： 8月27日（土）・9月3日（土）・9月4日（日）
場 所： 葛城市當間文化会館・當間スポーツセンター（奈良県）
受講者数： 22名

2) JVA 公認指導者の養成事業（日本小学生連盟）

➤ 小学生指導者資格一次講習会の開催

場 所： 全国7会場（北海道・秋田県・埼玉県・兵庫県・島根県・愛媛県・宮崎
県）
受講者数： 626名

➤ 小学生指導者資格二次講習会の開催

場 所： 全国2会場（山形県・奈良県）
受講者数： 57名

- 競技別指導者資格コーチ1 専門科目取得に伴うレポート提出
 - 1回目（5月1日～5月31日）：38名
 - 2回目（10月1日～10月31日）：92名

- 3) ソフトバレーボール指導者養成講習会・研修会の開催
 - 名誉マスターリーダー認定
 - 2022年度認定者： 16名

 - マスターリーダー養成講習会の開催
 - 期 間： 6月25日（土）～6月26日（日）
 - 場 所： ビジョンセンター浜松町・都立芝商業高等学校（東京都）
 - 新規合格者： 39名
 - 更新受講者： 37名

 - アクティブリーダー養成講習会の開催
 - 場 所： 全国8会場（青森県・山形県・栃木県・群馬県・山梨県・愛知県・佐賀県・鹿児島県）
 - 受講者数： 282名

 - アクティブリーダー研修会の開催
 - 場 所： 全国23道府県25会場
（当初29道府県で計画、感染拡大により6県で計画後中止）
 - 受講者数： 新規研修者：260名
更新研修者： 208名

- 4) JSPO 公認スポーツ指導者・JVA 公認指導者の養成講習会を開催するために講師の育成
 - JVA公認講師認定講習会の開催
 - 期 間： 12月18日（日）
 - 場 所： APアネックス品川（東京都）
 - 認 定 者： 8名

- 5) 指導者育成事業 ※資格保有者の資格更新研修会およびスキル向上研修会
 - 都道府県別研修会
 - 場 所： 全国14会場（北海道・山形県・茨城県・群馬県・千葉県・埼玉県・東京都・富山県・奈良県・大阪府・広島県・岡山県・鳥取県・熊本県）
 - 受講者数： 更新研修者：392名

 - 日本実業団連盟研修会
 - 期 間： 10月22日（土）～10月23日（日）
 - 場 所： イビデン健保体育館（岐阜県）
 - 受講者数： 33名（内更新研修者：23名）

- 日本中体連研修会
 - 場 所： 全国9会場（北海道・宮城県・東京都・山梨県・長野県・京都府・島根県・高知県・沖縄県）
 - 受講者数： 245名（内更新研修者：125名）

- 全国私学連盟
 - 場 所： 全国3会場（北海道・神奈川県・大阪府）
 - 受講者数： 更新研修者：40名

- 日本バレーボール学会
 - 期 間： 3月4日（土）～3月5日（日）
 - 場 所： 仙台大学・仙台大学明成高等学校（宮城県）
 - 更新者数： 8名

6) ビーチバレーボール指導者研修会の開催

- 期 間： ①9月17日（土）～9月18日（日）
②11月19日（土）
- 会 場： ①尾浜ビーチバレーボール場（福島県）
②びわ湖マイアミ浜（滋賀県）
- 参加者数： ①延べ113名
②延べ34名

(2) 審判員養成・育成事業

会議・講習会については、感染症対策としてWeb 議を併用して行った。また、審判規則委員会の構成員（委員長・副委員長・部長・指導部員・インストラクター）を対象に「コンプライアンス研修」を開催し、それぞれがコンプライアンスについての理解が深まった意義のある研修会となった。

【6人制】	開催期間	開催地・会場等
全国ラインジャッジ・クリニック	4/29～5/1	大阪府 (丸善インテックアリーナ大阪)
S1 レフェリー認定講習会	7/1～3	埼玉県 (深谷市)、兵庫県 (姫路市)
S1、S2 レフェリー技術強化事業	8/10～16 8/30～9/1 12/1～2	大阪府 (近畿大学) 愛知県 (愛知学院大学) 東京都 (全日本インカレ)
S3 レフェリー技術強化事業	5月～8月	全国各ブロックで開催
A級審判員資格取得審査講習会	8/10～14	大阪府 (近畿大学)
A級審判員技術強化事業	11/24～11/26	大阪府 (全日本総合男女選手権)
全国6人制審判講習会	2023年3月21日	東京都

【9人制】		
N1 レフェリー認定講習会	5/3～4	大阪府・東京都
N2 レフェリー技術強化事業	5月～8月	全国各ブロックへの講師派遣
審判員育成事業 (対象：B・C級審判員)	10/13～10/16 10/28～10/31	石川県（金沢市） 京都府（宇治市、向日市）
A級審判員技術強化事業	11/24～11/26	大阪府 （丸善インテックアリーナ大阪）
全国9人制審判講習会	2023年3月26日	大阪府
【ビーチバレーボール】		
B1 レフェリー認定講習会	4/23～24	静岡県浜松市
B2 レフェリー技術強化事業	5月～8月	全国各ブロックへの講師派遣
A級審判員技術強化事業	8/9～8/11	神奈川県川崎市 （ジャパン・カレッジ2022）
全国ビーチバレーボール審判講習会	2023年3月26日	神奈川県

（3） 審判員資格認定事業

昨年度、延期をした「A級審判員資格取得講習会《A級審査会》」を8月に大阪にて大学チームの強化合宿の機会を捉えて実施することができた。

4. 全国大会等国内競技会開催事業

【バレーボール】

（1） 天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会

国内最高峰の大会として位置づけられている本大会は、例年4月からの都道府県ラウンドおよび9月からのブロックラウンドを経たチームとV.LEAGUEのD1全チームを含め開催した。新型コロナウイルス感染症拡大状況により、都道府県ラウンドおよびブロックラウンドの一部は無観客開催としたが、ファイナルラウンドは、男女各D1チーム数に相違があるため、ブロックラウンドの勝ち上がりチームとV.LEAGUEのD1全チームを加えた男子26チーム、女子28チームで開催した。

■ファイナルラウンド：（54チーム参加）

開催期間： 12月9～11日（1回戦～準々決勝）[有観客]

12月18～19日（男女準決勝・決勝）[有観客]

開催地： 東京都調布市 武蔵野の森総合スポーツプラザ
東京都渋谷区 東京体育館

優勝： 【男子】ジェイテクトSTINGS（2大会ぶり2度目）

【女子】NECレッドロケッツ（初優勝）

(2) 全日本小学生大会（男女・混合大会）

大会の開催について、直前まで議論を重ねたうえで開催する運びとなった。しかし、コロナ感染症予防対策として無観客対応とした。

1) 都道府県大会

- ・開催期間： 5～7月
- ・開催都市： 各都道府県内体育館

2) 全国大会

- ・開催期間： 8月9日～12日
- ・開催都市： 東京都渋谷区、大田区、町田市、神奈川県相模原市、埼玉県さいたま市、千葉県浦安市

(3) JOC カップ全国都道府県対抗中学大会

コロナウイルス感染症予防対策を入念に準備し大会を実施。ただし本大会は無観客開催で開催した。

- ・開催期間： 2022年12月25～28日（代表者会議～決勝）
- ・開催地： 大阪府（丸善インテックアリーナ大阪、エディオンアリーナ大阪、パナソニックアリーナ、大阪市立港スポーツセンター）
- ・優勝： 【男子】東京（2年連続7回目）
【女子】東京（3年ぶり11回目）

(4) 全日本高等学校選手権大会

昨年度に引き続き、開催に向けて全国高体連専門部と東京都高体連、春高事務局と数度に渡り打合せを行い、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら有観客で開催することができた。

- ・開催期間： 2022年1月4～8日（1回戦～決勝）
- ・開催地： 東京都（東京体育館）
- ・優勝： 【男子】駿台学園（6年ぶり2回目）
【女子】古川学園（23年ぶり4回目）

(5) 秩父宮賜杯・秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会

男女各64チームの参加を得て実施。

■第75回秩父宮賜杯・第69回秩父宮妃賜杯全日本大学選手権大会

- ・開催期間： 11月28日～12月4日
- ・開催地： 東京都（大田区総合体育館 他）
- ・優勝： 【男子】筑波大学（10年ぶり10回目）
【女子】東海大学（2年連続9回目）

(6) 上記の各競技会に加え、JVA 主催、開催地都道府県協会等の主管により、以下の各種別全国大会を開催した。

大会名等	開催期間	開催都市
第8回全日本9人制バレーボールトップリーグ男子 オープニングラウンド： ファイナルラウンド：	10/9～10 12/17～18	無観客 無観客
第74回全日本9人制実業団女子選手権大会 第75回全日本9人制実業団男子選手権大会	7/16～18	※女子中止 福岡県久留米市
第41回全日本9人制クラブカップ女子選手権大会	8/12～14	大阪府大阪市
第41回全日本9人制クラブカップ男子選手権大会	8/11～14	静岡県浜松市
第21回全国社会人東ブロック男女優勝大会	10/13～16	石川県金沢市
第21回全国社会人西ブロック男女優勝大会	10/28～31	京都府宇治市、向日市
第91回全日本9人制総合女子選手権大会 第92回全日本9人制総合男子選手権大会	11/25～27	大阪府大阪市
第13回全国6人制バレーボールリーグ 総合男女優勝大会 (地域リーグ) (東西決勝リーグ) (グランドチャンピオンマッチ)	4月～12月 2023年1月～3月 2023年3月	全国各地 全国各地(無観客)
第70回黒鷲旗全日本男女選抜優勝大会	4/30～5/5	大阪府大阪市
第41回全日本6人制クラブカップ女子選手権大会	7/28～7/31	山形県山形市
第41回全日本6人制クラブカップ男子選手権大会	8/4～7	岡山県岡山市
第25回全国ヤングクラブ優勝大会	9/24～25	大阪府門真市ほか (入場制限有)
第11回全国ソフトバレースポレクフェスティバル	9/23～25	長野県長野市
第24回全国ソフトバレーレディースフェスティバル	10/14～16	福島県福島市
第30回全国ソフトバレーシルバーフェスティバル	11/18～20	高知県高知市
第7回全国ソフトバレー・フリーフェスティバル	11/12～13	宮城県仙台市
第13回全国ヴィンテージ8's交流大会	11/12～13	沖縄県

(7) 公益財団法人日本スポーツ協会 (JSP0) との共催により、以下の大会を開催した。

1) 第77回国民体育大会

①ビーチバレーボール

- ・日程： 9/10～13
- ・開催都市： 栃木県足利市

②6人制

- ・日程： 10/7～10
- ・開催都市： 栃木県佐野市、宇都宮市、鹿沼市

2) 第22回日本スポーツマスターズ2022 (入場制限有)

- ・日程： 9/23～26
- ・開催都市： 岩手県花巻市、紫波町、矢巾町

(8) 公益財団法人全国高等学校体育連盟との共催により、以下の大会を開催した。

1) 全国高等学校総合体育大会女子バレーボール競技 (入場制限有)

- ・日程： 7/29～8/1
- ・開催都市： 徳島県徳島市、鳴門市、北島町

2) 全国高等学校総合体育大会男子バレーボール競技

- ・日程： 8/4～7
- ・開催都市： 香川県丸亀市、善通寺市、三豊市

3) 全国高等学校定時制・通信制大会

- ・日程： 8/2～6
- ・開催都市： 神奈川県平塚市

(9) 公益財団法人日本中学校体育連盟との共催により以下の大会を開催した。

1) 第52回全日本中学校バレーボール選手権大会 (入場制限有)

- ・日程： 8/19～22
- ・開催都市： 秋田県秋田市、由利本荘市

【ビーチバレーボール】

(1) マイナビジャパンビーチバレーボールツアー (BVT1)

本年も、株式会社マイナビ様に引き続き冠スポンサーとしてご協賛いただき、ファイナルグランフロント大阪大会を含めて全7戦を開催した。本年は全試合有観客で大会を開催することができた。

また、選手およびスタッフによるビーチクリーンアップ、ビーチバレーボール教室も開催し、環境問題へのアプローチや地域貢献活動を実施した。

マイナビジャパンビーチバレーボールツアー2022	開催期間	開催都市
第1戦 立川立飛大会	5/3-5	東京都立川市
第2戦 大洗大会	7/29-31	茨城県大洗市
第3戦 平塚大会 ガラナ・アンタルチカ杯平塚市市制施行90周年記念大会	9/2-4	神奈川県平塚市
第4戦 名古屋大会	9/17-19	愛知県名古屋市
第5戦 都城大会 第23回ビーチバレー霧島酒造オープン	9/23-25	宮崎県都城市
第6戦 松山大会	10/1-2	愛媛県松山市
ファイナル グランフロント大阪大会	10/15-16	大阪府大阪市

(2) 国民体育大会ビーチバレーボール競技 (正式競技)

大会名等	開催期間	開催都市
第77回 国民体育大会	9/10 - 13	栃木県足利市

(3) 日本選手権

各世代の日本一を決める日本選手権大会として、本年は以下の日程で開催した。

大会名等	開催期間	開催都市
アクティオ杯ビーチバレーボール・ジャパンカレッジ 2022 第34回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会	8/9 - 11	神奈川県川崎市
ビーチバレーボールNEXT2022 第5回全日本ビーチバレーボールU-23 男女選抜優勝大会	7/22 - 24	兵庫県明石市
第21回全日本ビーチバレージュニア男子選手権大会	8/8 - 11	大阪府阪南市
'22 マドンナカップ in 伊予市 ビーチバレージャパン女子ジュニア選手権大会	8/11 - 14	愛媛県伊予市
第36回ビーチバレージャパン	8/12 - 14	神奈川県藤沢市
第33回全日本ビーチバレー女子選手権大会	8/18 - 21	大阪府泉南郡岬町
第13回湘南藤沢カップ全国中学生ビーチバレー大会	8/17 - 18	神奈川県藤沢市

(4) その他全国大会

JVA 主催大会として、本年は以下の大会を開催した。

大会名等	開催期間	開催都市
ビーチバレーボールNEXT2022 第5回全日本ビーチバレーボールU-23 男女選抜優勝大会	7/22 - 24	兵庫県明石市
2022 ビーチバレー・ルナカップ in 御宿 第5回大会	8/20-21	千葉県御宿町
第14回ビーチバレー川崎市長杯	10/8-9	神奈川県川崎市

5. マーケティング事業

JVA の事業を安定的に運営すべく、バレーボール競技の社会的な価値および JVA が所有する各種プロパティの価値の向上と日本バレーボール協会の社会的な信頼回復を目的とした適切なプロモーション活動を行い、JVA の事業に賛同いただいている協賛社とのパートナーシップ強化および新規協賛社の獲得に向け、積極的に活動を行った。

6. 用具、用品等の公認事業及びその他の公認物品販売事業

(1) バレーボール用品・用具の公認・推薦事業

競技の公正、安全ほか競技者が安心して楽しくプレーできるように、ボール、ネットほか用品・用具の公認・推薦の認定を行うとともに、競技者及び体育施設等へ、より良い用品・用具が提供されるよう、販売・製造事業者への働きかけを行った。

また、公認審判員やソフトバレーリーダーなどに対しては、資格保有者としての自覚を促すため、公認物品の販売を通してその着用を推奨した。

(2) ルールブック販売事業

バレーボールの愛好者、審判員、指導者をはじめとする多くの国民に対し、最新のルール情報を提供するために、公認ルールブックであるバレーボール6人制競技規則、同9人制競技規則、ソフトバレーボール競技規則、ビーチバレーボール競技規則を出版販売した。

7. V. LEAGUE 開催及び開催支援事業

Vリーグ機構が主催、JVA が共催する「V. LEAGUE (大会)」の開催において、バレーボールの普及・振興に寄与するために、大会に競技運営責任者 (JURY) と審判員の派遣を行い、V. LEAGUE の試合運営並びに開催支援を行った。また、V. LEAGUE と相互の連携を積極的に行い、バレーボールコンテンツにおける大会等のマーケティングやプロモーションを、それぞれの大会を通して共同で参画、実施した。

8. 収益事業

(1) ファン向けサイトの運営事業

広くファン層にバレーボールの魅力を浸透させるため、JVA ホームページとは別に、バレーボール日本代表オフィシャルファンサイト「バレともタウン」の充実を図り、JVA ならではの情報を SNS と交えながら発信。有料会員の増加も実現した。

(2) 肖像使用許諾事業

JVA 登録選手の肖像権等の管理運営を行い、肖像権使用料収入を得て、一定額を肖像が使用された選手等に配分した。

(3) バレーボール関連グッズの販売事業

バレーボールの魅力を高め、「する・観る」人口の拡大に貢献するような商品の開発、販売を行った。

9. その他

(1) 加盟団体との連携強化

加盟団体と、国際大会や国内大会を含む JVA の各種事業において、連携および運営サポートを行った。また、MRS に関するサポートや競技役員の派遣を実施し、コロナガイドラインの周知など、安全な大会運営のためのフォローアップを行った。

(2) JVA メンバー制度登録管理システム (Membership Registration System)

登録規程の改訂とバレーボールを愛するすべての方々に参加いただけるバレーボールファミリー会員制度として構築することを継続検討し、法人化プロジェクトの一施策として進めることを方向づけた。

(3) 競技者拡大活動

2022 年度においては、競技者拡大を図ることを念頭に、以下の事業を実施した。

1) Vリーグ選手と一緒にバレーボール教室

開催場所	開催日時	参加人数
山口県長門市	6月4日	120人
岩手県陸前高田市	9月24日	65人

2) 中学校ビギナー選手バレーボール大会推進

開催場所	開催日時	参加チーム数	参加人数
北海道札幌市	1月29日	女子4チーム	66人
茨城県常総市	2月25日	男子12チーム 女子12チーム	288人
東京都練馬区、世田谷区他	1月29日	男子36チーム 女子82チーム	1340人
岐阜県山県市	2月12日	男子5チーム 女子12チーム	194人
富山県富山市	12月18日	女子12チーム	138人
滋賀県大津市	2月11日	男子6チーム 女子14チーム	212人
島根県出雲市	12月17日	女子13チーム	166人

3) 全国小中一貫バレーボール教室

開催場所	開催日時	参加人数	保護者
北海道小樽市	8月6日	159人	24人

4) 幼稚園・保育園等でのソフトバレーボール（風船等）実践

開催場所	開催日時	参加人数
三重県津市 『津市立芸濃子ども園』	12月19日	56人
高知県高知市 『横浜保育園』	1月25日	20人

5) アンダー10 大会促進

	開催場所	開催日時	参加チーム数	参加人数
1	山口県周南市	6月26日	男子3チーム・女子9チーム ・混合3チーム	180人
2	沖縄県名護市	7月30日・31日	男子15チーム・女子48チーム ・混合48チーム	920人
3	静岡県島田市	8月17日	男子4チーム・女子7チーム ・混合1チーム	75人
4	秋田県能代市	9月10日	男子3チーム・女子12チーム ・混合13チーム	214人
5	岡山県岡山市	9月11日	男子6チーム・女子25チーム ・混合11チーム	358人
6	福島県いわき市	9月25日	男子1チーム・女子16チーム ・混合13チーム	252人
7	岩手県八幡平市	10月8日	男子9チーム・女子16チーム ・混合8チーム	276人

8	福岡県朝倉市	10月9日	男子6チーム・女子9チーム ・混合9チーム	255人
9	滋賀県守山市	10月15日	男子2チーム・女子14チーム ・混合10チーム	208人
10	宮城県加美郡	10月16日	混合28チーム	320人
11	茨城県石岡市	11月13日	男子4チーム・女子32チーム ・混合11チーム	398人
12	高知県高知市 ・南国市・安芸郡	12月3日	バレーボール17チーム ・ソフトバレー12チーム	188人
13	青森県三沢市	12月10日	男子2チーム・女子7チーム ・混合9チーム	168人
14	奈良県香芝市	12月24日	男子4チーム・女子12チーム ・混合5チーム	112人
15	長崎県佐世保市	2月18日	男子12チーム・女子16チー ・混合18チーム	485人
16	大阪府堺市	2月18日	男子4チーム・女子8チーム ・混合14チーム	258人

(4) 競技の高潔性を保ちアンチ・ドーピングの推進および遵守

公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）との更なる連携を図り、ドーピング検査の実施や教育・啓発活動を推進した。特に、日本代表選手（アンダーエイジカテゴリーを含む）やトップリーグの選手・チームスタッフに対して講習会を実施し、バレーボール界における更なるドーピング知識の浸透を図った。

以上